

平成27年度 自己評価書

学校名	和歌山市立西浜中学校
校長氏名	井谷正人
作成日	平成 28年 2 月 19 日

1 教育目標

「創造力に富んだ心豊かでたくましい生徒の育成」「自ら学び、ともに生きる」

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	○ 共生コミュニティ事業の推進 ○ 西浜地域共生協議会の拠点校として、同窓会組織「浜友会」やPTAなど各種団体と協力しながら地域を育て生徒を育てあう学校 ○ 地域とともに防災教育を考える学校	○ 生徒会活動を核とした体験的学習の推進 ○ キャリア教育の充実 ○ 道徳教育の充実 ○ 豊かな体験活動を通して、人の心のいたみがわかるなど豊かな感性を養い協力し合う生徒の育成 ○ 市民性を育てる教育の推進	○ 自ら課題を求め、よりよく解決する意欲を持ち、互いにみがきあう生徒の育成 ○ 落ち着いて、学び合い、高め合う学習集団の育成

取組の状況【D】	○ 授業参観、PTA総会、部活動顧問会を開催(4月) ○ 水軒浜クリーン作戦(5月) ○ 西浜地域共生協議会開催(6月) ○ 森林教室に参加(7月) ○ 西浜地区健全育成協議会開催(7月) ○ サマーフェスティバルに協力(8月) ○ 学校HPに学校だより等掲載(9月～) ○ 学校開放を実施(10月、11月) ○ 市総合防災訓練に協力(11月) ○ 和附特生徒を音楽会に招待(11月) ○ 冬季もナイター開放に協力(12月～) ○ PTAバザーに協力(1月) ○ 水軒浜植樹(2月) ○ 小学6年生部活動見学(2月) ○ 西浜地域共生協議会開催(2月)	○ 生徒会を中心とした取組の充実 - いじめなくそうデーの放送(毎月) - あいさつ運動(毎月) - プルタブ回収などエコ活動(毎月) - 障害者つながり文化祭に協力(3月) - PTAや浜友会と連携した活動(年間) - 学校清掃ボランティア(5月) - 森林教室(7月) ○ 1年生福祉学習、職場体験出前授業、水軒浜植樹 ○ 2年生職場体験、水軒浜クリーン作戦 ○ 3年生進路指導の充実 ○ 給食指導を中心とする食育の推進 ○ 道徳教材「希望へのかけはし」や「わたしたちの道徳」の活用 ○ 人権同和特設授業の実施(年3回) ○ いじめアンケート、教育相談(年2回) ○ 西浜ブロック人権教育研究会(年2回)	○ 授業時数確保策の実施(3年生家庭訪問なし、8/31に2学期始業など) ○ 新規格生徒用机・椅子に統一を機に学習室を整備、年2回不用品整理など校内環境整備を実施 ○ 朝の基礎学習時間を実施 ○ 研究授業、現職教育、教員研修を実施 ○ 学力向上フォローアップ事業を実施 ○ 和歌山大学連携授業カンファレンスを実施 ○ LD等通級指導教室やリソースルーム活用 ○ 放課後補習や夏季休業中補習を実施 ○ 和歌山大学学生ボランティアを活用 ○ QUを活用した学級集団づくりを実施
取組の成果と課題【C】	○ PTAや浜友会との連携により充実した取組を行うことができた。 ○ 国体開催に伴い学校行事が組みにくい状況であったが、体育大会も開催でき多くの方に来校してもらえた。 ● 地域の他の学校との交流や連携を深めていければよい。	○ 生徒会、学年等を中心に多くの体験的な活動を実施できた。 ○ 部活動や各種活動に積極的に取り組むことができた。 ● 例年実施しているAED認定講習会を実施することができなかった。 ● ことばづかいや態度、他者とのコミュニケーションなど、さらに指導を進めていく必要がある。	○ 関係機関との様々な連携により、研修の機会を多く持つことができた。 ○ 不登校生徒のなかでも、別室登校やふれあいセンター等への登校ができる生徒が増えてきた。 ● 施設・設備・備品、清掃活動など学習環境をさらに整えていく必要がある。 ● 自ら進んで学び、考える生徒の育成をさらに図りたい。
改善方法【A】	○ これまでの取組を継続できるよう努める。 ○ 地域の他の学校との交流や連携の方法を探っていく。	○ 今後も様々な体験の機会を設ける。 ○ 社会の一員としての自分を意識づけ、他者への関わりや規範意識、思いやりの心を育てる学習や取組を工夫する。 ○ AED講習会の時期や協力者を工夫する。	○ 引き続き授業時数確保、研修充実、学力補充に努める。 ○ インクルーシブ教育やユニバーサルデザイン授業、通級指導教室との連携など特別支援教育充実の継続・深化を図る。 ○ 教科書が変わることに伴い、教材・備品・設備の充実に努める。 ○ 清掃活動の充実を図る。

3 その他の課題

- 不登校を減らすための取組充実
- 通学路の安全、交通マナーの向上
- 2年生普通教室空調設備設置工事への対応